

白神通信



【倒伏した400年ブナ】
倒伏確認から半年
令和4年9月撮影

[contents]

- ◆ 令和4年度第2回合同パトロール・・・・・・・・・・・・・・・・P 2
- ◆ 能代高校二ツ井キャンパス
植樹体験と自然観察会・・・・・・・・・・・・・・・・P 3
- ◆ 獨協大学 岳岱整備ボランティア・・・・・・・・・・・・・・・・P 4
- ◆ 東京都立大学 白神山地の文化を調査・・・・・・・・・・・・・・・・P 5
- ◆ 令和4年度中・大型哺乳類調査・・・・・・・・・・・・・・・・P 5
- ◆ 地域より「白神山地との出会いとこれから」
環白神エコツーリズム推進協議会 佐藤和明・・・・・・・・P 7
- ◆ 藤里森林生態系保全センターからのお知らせ・・・・・・・・P 8

藤里森林生態系保全センター

令和4年10月11日 No.105

令和4年度第2回合同パトロール

令和4年度第2回目の合同パトロール（秋田県側）は、9月3日（土）に環境省、秋田県、東北森林管理局、米代西部森林管理署、世界遺産地域巡視員の総勢23名により、白神山地世界遺産地域周辺区域の粕毛林道沿線で発生が確認された9箇所についてオオハンゴンソウ駆除を実施しました。

実施にあたっては環境省藤里自然保護官事務所、自然保護官補佐の成田さんから、特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの生態や駆除方法についての説明をしていただき、4班に分かれて駆除作業を実施しました。

駆除は、最初に花・種子をハサミで切り離してビニール袋に入れ、次に根茎の処理となりますが、根がしっかりしており素手で抜くことが困難なため、スコップ・クワなどを使って掘りおこし作業をしました。

オオハンゴンソウが発生している場所は林道沿いということもあり、採石などで踏み固められている箇所が多く作業はなかなかの重労働でした。

また、駆除した9箇所のうち3箇所については試験的に刈り払いをし、遮光シートを敷いて、今後の繁殖状況等について経過観察していくこととしました。

オオハンゴンソウは繁殖力が強く、在来種の生息環境を奪ってしまいますので、登山などをされる方は靴底についた泥などを落としてから入山するようお願いいたします。



成田自然保護官補佐より
オオハンゴンソウの説明



花畑になってしまっていた箇所も・・・



種子が落ちないように花を先に処理



遮光シートを敷いて防除出来るか検証

植樹体験と自然観察会

秋田県立能代高校二ツ井キャンパス校では、世界自然遺産「白神山地」の魅力を伝えられる生徒を育成し、自然を守る気持ちを深めることを目的とした「白神プロジェクト」の一環として、9月2日に1年生と3年生の併せて32名によるフィールドワークがNPO法人あきた白神の森倶楽部主催で行われました。当センターでは植樹指導と岳岱自然観察教育林での自然観察会のガイドとして職員を派遣しました。

植樹は森のサイクルや自然の大切さを学ぶことを目的に、スギ人工林伐採跡地にブナの苗木を200本植樹しました。生徒たちは植樹方法の説明後に我先にと自主的に作業を始めていました。虫刺されに脅かされつつも、全ての苗木を植えることができ、キレイに並んだ苗木は生徒たちの真剣さを物語っていました。ブナは実をつけるまでに発芽から40～50年ほどかかると言われています。植樹した苗木が実をつけた時に、生徒たちがまたここを訪れていただきたいものです。



植え方を真剣に聞く生徒達



全員で素早くブナの苗を植え付けていきます



次は岳岱自然観察教育林での自然観察会です。雨水を地中に浸透させて貯めこむ“水源(すいげん)涵養(かんよう)”や空気の浄化等、森林の機能について学びました。林内には里では見られない植物が多く生育しており、生徒達はスマートフォンで撮った写真に植物の名前や説明を付け、興味津々にガイドの説明を聞きながら散策をしました。

生徒たちにとって、「白神プロジェクト」が白神山地の魅力を感じる機会であるとともに、今回のフィールドワークにより、森林や林業、ひいては環境問題について考えるひとつのきっかけになればと思いました。



ガイドの説明を熱心に聞きながら散策する生徒達

獨協大学 岳岱整備ボランティア

獨協大学経済学部（埼玉県）の2年生14名と3年生15名が、藤里町を拠点に行っている「白神山地合宿」の一環として、岳岱自然観察教育林内でボランティア活動を行いました。

「白神山地合宿」は同大の犬井正元学長が主宰する経済地理学研究室犬井ゼミを平成28年に行ったのが前進で、現在は大竹伸朗准教授が受け継いでいます。ゼミはエコツーリズムによる持続可能な地域振興のあり方を自然体験やボランティア活動を通して実践的に学ぶことを目的とし、平成29年からは藤里町の民宿や白神ぶなっこ教室などに宿泊をし地域住民と交流しながら実践しています。また「白神山地合宿」は学年単位にそれぞれ三泊四日で実施されており、ボランティア活動も2年生が8月31日、3年生が9月8日の実施となりました。

ボランティア活動は、歩道へのウッドチップ敷設を平成29年から継続して実施していますが、今年は3年ぶりといったこともあり、敷設箇所が多く学生達は何度もウッドチップを土のう袋に詰めては運ぶといった作業を繰り返し行いました。

2年生のボランティアは作業前から雨が降り、途中から土砂降りとなったため、雨合羽を着ながらの作業となりました。雨の中、泥だらけになりながらもウッドチップを土のう袋に詰め、水たまりが出来やすい箇所へ敷き詰めていき、観光客が歩きやすいようならしていききました。

また、男子学生は歩道に倒れて歩行の支障になっている倒木を初めて触るノコギリで処理し、筋肉痛と闘いながらも処理を終え、歩道脇に処理した倒木を寄せてくれました。この日は作業の前に、地元ガイドの案内で教育林内のガイド説明を受けており、その際に、「樹幹流が綺麗に流れていて感動した。」との声が聞かれ、雨の日には出来ない貴重な体験も出来ているようでした。

8日の3年生は、晴天の中、朝8時30分に登山口を出発して藤里駒ヶ岳を制覇し、午後からのボランティア活動となりましたが、疲れを感じさせないパワーでウッドチップを運んではならず、踏み固めていました。岳岱多目的展示施設周辺での作業では物陰に隠れたネズミを見つけた学生が、作業を一時中断して観察に没頭する場面もありましたが、予定していた作業は全て終わらせることが出来ました。

ゼミの目的でもあるエコツーリズムの一環としてボランティア活動を実施することにより、地面の凹凸が減り、歩道がとても歩きやすくなったことは、岳岱自然観察教育林の魅力発信の一助になったと思います。



合羽を着ての作業



ブナの倒木処理



藤里駒ヶ岳を登った直後でも一生懸命作業していきます

東京都立大学 白神山地の文化を調査

東京都立大学の学生14名(大学院生2名を含む)が9月6日から9日にかけて、白神山地周辺の文化や歴史を学ぶため、鯉ヶ沢町、深浦町、西目屋村、八峰町、藤里町で白神山地文化資源調査を行いました。

当センターには8日に来所し、昔の林業の作業風景写真や、実際に使われていた道具を見学しました。学生達はそりで丸太を運搬する写真や、実際に使われていた大きなノコギリを見て「すごい…」と声を漏らしていました。樹木の標本コーナーでは直接手で触れてみたり、センサーカメラに写った動物や白神山地で見られる草花にも興味をもち、多くの質問がありました。

白神山地周辺の豊かな森、豊かな文化にふれ、有意義な学習の場として力強さを感じた学生達は、今後は白神検定や教科書作りを目標に、これからも調査を続けていくと語っていました。



展示室を熱心に見て回る学生達

令和4年度中・大型哺乳類調査

藤里森林生態系保全センターでは、白神山地世界遺産地域モニタリング計画に基づき、例年、白神山地周辺地域の国有林(秋田県側)にセンサーカメラを設置して、中・大型哺乳類調査を行っており、そのデータを利用して、ニホンジカの生息地域調査も併せて行っています。

今年度は8月まで国有林でのニホンジカの撮影が無かった事から「昨年の大雪で居なくなったのでは?」と思っていましたが、9月2日に、オスとメスが1枚の写真と一緒に写っていました。場所は二ツ井西目屋線第2ゲート奥にある桧原沢林道です。ここは、令和3年度にメスが撮影された一通沢林道から直線距離で約1.3kmと比較的近い箇所であり、5月にはニホンジカらしきフンを見つけたと情報があつた箇所からも近いことから、今後も藤里町と情報共有しながら、監視を続けて行く事とします。

また、今年度は、ニホンジカへの監視を強化するための新たな取り組みとして、能代市や八峰町協力のもと、能代市内の民有林に2台、八峰町内の民有林に7台のセンサーカメラを設置しています。



9月2日桧原沢林道で撮影



桧原沢林道位置図

八峰町内の民有林に設置したセンサーカメラ7台の内、沿岸に設置した4台は、3年度冬期間と同じ箇所に設置しています（白神通信 No. 102 でも紹介しています）。この箇所では、令和4年3月に延べ3頭（1個体？）のニホンジカのオスが撮影されました。当センターでは「撮影された箇所については越冬だけでは無く、年間を通して生息しているのでは？」と推測し、八峰町と土地所有者の協力のもと継続して設置することとしたものです。これまでの撮影状況は6月に延べ2頭のニホンジカのオスが撮影されています。

また、撮影データを確認したところ、「イノシシ」らしき生き物が映り込んでいました。これまでの当センターの調査では、令和2年度に1度だけ撮影されていました。

八峰町へ情報提供したところ、猟友会による現地確認が行われ、調査の結果「どうやら間違い無い、イノシシがいる。」といった事で、八峰町では対策等について検討中と聞いています。

冬期間はニホンジカの越冬地調査を行うため、関係市町と連絡して新しい設置箇所等について検討して行こうと思います。



6月25日八峰町で撮影



8月24日八峰町で撮影のイノシシ

番外編～珍しい画像紹介～

8月2日以降の大雨の影響は国有林の林道にも多くの被害をもたらしました。被害を受けた林道沿線のセンサーカメラのデータ回収は、被害箇所から歩いての回収となっています。そんな中で八峰町の国有林に設置したセンサーカメラには大雨により林道が川と化した状況が撮影されていました。これまでも林道を通る大量の雨水は見たことがありますが、「車も流されそうな濁流。」が流れている状況は、写真とはいえ見たことが無かったため、今回紹介します。



7月28日までの林道



8月9日、濁流がカメラ近くまで



8月13日、大雨の直後

7月28日までは自動車で行ける林道が、8月9日には水量も流れの速さもまるで川、センサーカメラを設置した高さが地面から1.5m程度である事から、水深は1mを超えたと思われます。8月13日には水がかなり引いたものの、林道が沢のように変わり、大量の石も現れて林道の面影はありません・・・センサーカメラのデータ回収に行ったのが8月26日で、河原を歩いているかのような感覚でした。

動物以外でも珍しい写真が撮れたら、今後ご紹介しようと思います。



8月26日のカメラ周辺の様子

白神山地との出会いとこれから

環白神エコツアーリズム推進協議会 佐藤和明



藤琴川にて

9月より、白神山地世界遺産地域巡視員に委嘱されました。環白神エコツアーリズム推進協議会の佐藤和明です。普段は白神山地世界遺産センター（藤里館）におり、藤里町に移住して1年半となります。

実は、大学入学まで自然とは無縁の生活をしており、恥ずかしながら大学に入るまでは白神山地の名前すら認識していませんでした。遠い場所にあるかと思いきや、自宅から自転車で1時間半という間近にあるのは衝撃でした……。

こうした常識に近いことを知ったのも大学1年次に出会った先生（元白神自然環境研究センターの荒井一成先生）の木材の講義・実習がきっかけです。先生からは、景色だけにはとどまらない自然の面白さを教わり、だんだんと自然へと傾倒していきました。

大学生活は、休日や長期休暇になると、自転車でテント、寝袋など大量の荷物を積み込んで北は礼文島から南は屋久島まで日本各地の自然を見て周る生活を送っていました。

大学生活を振り返ったときに、まだ見えない日本の自然は数多ありますが、その中でも白神山地の沢の美しさや歴史の魅力に惹かれていることに気が付き、いつしか白神の地で働くこと、巡視員になることを夢見ていました。

今回から巡視員になるにあたり、白神山地が好きで来たものの、まだ行ったことがない場所、知らないことは多々あります。これから時間をかけて学んでいきたいと思えます。

白神山地の価値を未来につなぎ、多くの人に価値を理解してもらえるよう、巡視員としてだけではなく、一個人としても活動していきたい所存です。白神山地に関わる全ての方、今後ともよろしくお願いたします。



大川 タカヘグリ



赤石溪流線を自転車で

藤里森林生態系保全センターからのお知らせ

研修棟パワーアップ！

剥製を追加！

400年ブナコーナー



展示室



写真に囲まれた実習室

研修棟受付時間：9時～16時

受付日：毎週月～金曜日(祝祭日は除く)

令和4年10月1日付け

人事異動

転出の挨拶

山内 武文

令和元年4月より白神山地世界遺産地域の業務に携わることができ、貴重な経験ができました。また、ここでしか出会えない方々と巡り合えたことも大きな財産となりました。

今までお世話になりありがとうございました。

転入の挨拶

盛 一樹

生態系管理指導官に着任しました盛(もり)と申します。これまで主に北上高地のニホンイヌワシと林業の関わりについて個人的に学んできました。これからはイヌワシだけでなく、生態系全般を学びながら業務に務めますのでよろしくお願いいたします。



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL: 0185-79-1003 FAX: 0185-79-1005

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>

